特254
267

昭和十一年十二月

青年讀物

第二輯

鳥取縣立鳥取圖書館

始

特254
267

昭和十一年十二月

青年讀物

第二輯

鳥取縣立鳥取圖書館

發行所寄贈本

序

書物は精神の榮養であるといつてもその内容の如何によつては寧ろ害毒となるものがある。しかし内容が堅實である許りでは榮養にならない。讀む人の程度に適したものでなければ有害でないにしても無益である。こゝに内容と程度の上に於て適當な良書を選ぶ必要があるのである。

本讀物は昭和九年の第一輯に次ぐもので、同年以後に出版されたものゝうちから青年に適する讀物を仔細に調査選擇の上推薦した良書百種で、本館の分類に準據して、百種を九部門に分け、部門内の圖書の配列は五十音順に依ることゝした。

又卷末に内容目次並圖書發行所一覽を掲載して參考に供して居る。

昭和十一年十二月

鳥取縣立鳥取圖書館

鳥取縣立鳥取圖書館藏本

青年讀物 第二輯

隨筆

隨筆集 雨の念佛 宮城道雄 昭三 笠書房 一〇、二 四六判二七六頁 一、五〇

本書は失明の樂人宮城氏が藝道に勵める辛苦三十餘年の体驗に基いた藝術觀、人生觀及び作曲のゆかりとなつた自然及び人事百般の回想錄であり紀行集である。氏のたゞ耳の世界のみを通しての藝術と、人生に關する氏の鋭い感覺は我等に多くの示唆を與へずにおかぬものであり、近時異色ある好讀物として廣く江湖に薦めたい良著である。

鬼の念佛 釋瓢齋 昭一〇、一 立命館出版部 四六判二九八頁 一、五〇

本書は大朝天聲人語の筆者として知られてゐる瓢齋子が各地を俳行脚の際に觀且つ感じたる社會觀人生觀を其の輕妙洒脫なる縱橫の才筆に托して道破せるもので、禪の妙諦に徹せる著者が新聞人たる立場を離れて觸目の社會と人間を批判し描破せるところ深き興趣が全紙幅に躍つてゐる。

學窓雜記 小泉信三 昭一一、七 岩波書店 四六判三四一頁 二、〇〇

著者の前著「師、友、書籍」の姉妹編と言ふべきもので、編纂も大体同じやうな骨組みから成り、福澤先生に關す

るもの、漱石、鷗外等文學者に關するもの、內外の經濟學者に關するもの、旅行、讀書についての隨筆といつたものからなつてゐるが著者の豐富な學殖と明晰な頭腦の閃きとは本書に溢れて潑溂の氣自ら迫り來るを覺えるものがある。

黑頭巾を脫ぐ　丸山幹治　昭一〇、四　言海書房　四六判三四七頁　一、八〇

最近二、三年間、大阪毎日　サンデー毎日、京都大學新聞その他に掲載せるものゝうちより適當に選擇して上梓したのが本書で、偏せず黨せず極めて自由率直に現代思潮と人物とを評論し、筆鋒犀利一讀卷を掩ふに遑ならしむる快著である。因に筆者は大毎「硯滴」の擔當者である。

藝林閑步　下木杢太郎　昭一一、六　岩波書店　四六判五二八頁　二、六〇

本書は醫學に專念の傍ら「南蠻寺門前」「厥後集」等の名作を發表して文名の高い著者の隨筆集で、昭和初年以後今日迄に至るものを收めてゐるが昨今數多く出版された隨筆の中で特に香り高き佳品である。

山中說法　楚人冠　昭一〇、七　日本評論社　四六判三二〇頁　一、八〇

輕妙犀利の筆鋒を以て鳴る杉村楚人冠氏が「週間朝日」に連載したものを編めたもので、いづれも世間、人事に關する短い言葉であるが、讀者は著者の獨特の輕快な筆致の中に嚙みしめれば嚙みしめる程世上の機微に觸れた不盡の妙味に接して一讀卷を措く能はざるものがあるであらう。

續々湖畔吟　楚人冠　昭一〇、六　日本評論社　三五版三六一頁　一、二〇

本館が嘗に「町村圖書館標準圖書目錄第一編」中に推薦した「續湖畔吟」に次ぐもので、前書同樣、著者一流のさら〳〵とした筆致と機智に富んだ觀察とが惜みなく全紙幅に躍動した青年好適の讀物である。

村里生活記　結城哀草果　昭一〇、二　岩波書店　四六判三〇九頁　一、八〇

著者は山形縣南村山郡本澤村の一農夫であるが、十數年前からその勤勞生活の氣持を一首一首の和歌に托して今日に及び、本邦歌壇に特殊の位置を占めてゐる人である。本書はその農村生活諸相をあらゆる角度から寫し出して我等の前に提供したものであるが、著者と同じ生活樣式にある農村青年にはこの內容の一つ〳〵が切實に身に迫り來るを覺えるであらう。

哲學・心理・倫理・宗教

家庭・婦人・兒童　高島平三郎　昭一一、五　平野書房　四六判二九八頁　一、五〇

著者は久しく學習院講師として華胄界の子弟の敎育に從事した人で、本書は著者が將に嫁がんとする松平直亮伯の令孃及び高松宮妃殿下の爲めに家婦としての日常道德を御講述申上げた稿本に若干の增補をなしたものである。本書はどこまでも該博なる學識と人生體驗が極めて平明なる學說を以て說かれてあり、前述の如く特に貴族の子女に示されたものではあるが、一般子女の敎養上にも極めて適切なる修養書として推奬するに足るものである。

敎育勅語渙發の由來　渡邊幾治郎　昭一〇、一〇　學而書院　四六判二七〇頁　一、五〇

教育勅語は我國民の行手を示す永劫不滅の亘火である。この故に從來その倫理的解釋や、教育的說明は實に遺なくなされて來たが勅語渙發の由來を斯く詳述したるものは稀である。讀者は本書を通して明治大帝が如何に教育に叡慮を用ひさせ給ふたかを拜察して思はず襟を正さずに居られないが、國民思想の混頓たる今日特に全國民の必讀すべき良書として敢て江湖に推薦する。

鄕土に輝く人々　熊谷辰次郎　昭泰文館　四六判三一一頁　一、三〇

一世の偉人、英雄と言はれる人々が偉大なる人物である以外に「當り前の生活を、こつ〳〵としてゐながら、味ひのある人、かうした人は尊い人」である。寧ろ我々は此の平凡なる非凡人により一層の親しみを持つ場合がある。本書はさうした意味で我々の生活の師表たり得る人々の奮鬪の實際及び甦生途上にある村々の更生實話約三十篇を收めたもので何れも感激に充ちたものばかりである。

群を拔く道　增田義一　昭實業之日本社　四六判三四〇頁　一、〇〇

本書は書名の語るが如く、いかにして群を拔くべきかといふことを理論と實歷体驗の兩面より解答を與へたもので古今東西の偉人名士の訓言や學者の諸說をも引證して、精神修養上多くの教訓と感激とを與ふる良著である。

孔子の生涯　諸橋轍次　昭章華社　四六判一八八頁　一、〇〇

本書は「朝の修養」として全國に放送された講演の筆記であるが、七十四年の孔子の生涯を大体年代順に、その人と爲り、環境、思想、教育事業及び孔子沒後の儒教發達の經路等に就て頗る平易に叙述したものであり、聖哲を偲ぶにはまことに好適なものである。

現代女性　信仰讀本　甲斐靜也　昭熊崎閑田　四六判一七六頁　一〇、一〇、九〇

本書は若き女性、特に勤勞者階級に屬する女性を對象として彼等の心を宗教的信念に導かんとしたもので、六ケ敷い宗教理論を避けて、極く平易に佛教聖典中の物語を述べ、佛陀の教訓を實踐すべき日常の心がけを說いてゐるが所々には朗唱すべき聖歌聖句をも點綴して情操の向上に努めた青年子女必讀の良書である。

眞理に生きる　下村虎六郎　昭泰文館　四六判二六八頁　一、二〇

大日本聯合青年團講習所長の著者が各種の雜誌に執筆したもの、各地の講演等を集めて一本としたもので、青年向の讀物として好適である。書名は稍固苦しい感じが無いでもないが、內容はさうでなく、幾多の和歌や、ユーモアに富んだ話題を交へて、泌み〳〵と讀者の胸奥に迫るものがある。

青年心理　青木誠四郎　昭叢文閣　四六判一七八頁　一〇、九〇

本書は、東京帝大の助教授で、青年心理の研究家たる著者が、世の青年指導者達の「青年生活の特色についての理解を進める」ために平明に青年心理を描いたものであるが、青年自身の自省用としてもまた頗る有益なる著述である。

青年の書　室伏高信　昭モナス　四六判三六四頁　一、五〇

青年は人生の岐路であり、運命の門出で一日も修養を忽にすることは出來ない。本書は著者が世の青年達に贈つた所謂「青年の書」で、先賢の教を織込みつゝ戀愛、結婚、人生、職業、勞働其の他あらゆる問題に亘つて明快な指

針を與へたものである。之を遍く世の青年諸子に薦めたいと思ふ。

道元（日本佛教聖者傳第八）　主室諦成　昭一〇、七　日本評論社　四六判二七四頁　一、二〇

道元禪師は當時の宗教が權門に阿附して富貴榮達を求め、徒に俗耳に入り易い念佛唱題等の易行道を旗幟としたるに反し、「學道はすべからく我等を離るべし」「名聞利養にかゝはるべからず」と力說してその末法思想的風潮を徹底的に批判した一世の傑僧である。禪師の眞面目は本書に依つて遺憾なく傳へられてゐるが、宗教復興の聲都鄙に喧傳せらるゝ今日眞の宗教家たる禪師の生涯とその精神を知ることは極めて緊要であらう。

日本精神　モラエス（葡）モラエス著　花野富藏譯　昭一〇、六　第一書房　四六判三一六頁　一、五〇

日本を愛し、日本を研究して吾國文化の進展に貢獻した外國人は可成多い。本書は明治三十年頃日本に來住し、昭和四年妻の郷里德島で逝いた著者の日本觀を纏めたものであるが、廣く文學、藝術、風俗等に一見識を持つて我等に敎ゆる所多く、譯文また流麗にして一讀卷を措く能はざるものがある。

熱と愛とまごゝろの結晶　村上寛　昭一〇、五　文友堂　四六判三一二頁　一、〇〇

著者の講演の特徴は實話を以て感情に迫り、その心を淨化する所にある。本書は親の愛、子の思慕、兄弟愛、鄕土愛、社會愛、友情等を實話の中に織込んだ各地の講演集であるが日本人特有の純情さと情宜に厚い美德が全紙幅に溢れた好讀物である。母親の家庭讀物として適當であるがまた男女青年向として恰好であらう。因に著者は本縣出身者である。

口語全譯　幼學綱要　元田永孚編　蘆谷重常譯　昭一〇、五　厚生閣　四六判五二四頁　二、〇〇

明治維新以來西歐文明の急激なる輸入のために、我が國民思想は著しく混亂したのである。長くも明治大帝は侍講元田永孚に命じて少年子弟に修身道德の大本を敎ふるの書を撰せしめられた、幼學綱要は即ちこれである。本書はその口語譯であり、最近思想混迷の折柄青年子女の一讀を薦めてやまぬ良著である。

歷史・傳記・地誌・紀行

石黑忠悳懷舊九十年　石黑忠悳　昭一一、二　博文館　菊判五〇〇頁　三、八〇

日清戰爭の折廣島大本營に、明治天皇の帷幕に參した當時の陸軍軍醫總監兼野戰衛生長官たりし石黑子爵は今年九十二歲、尙ほ能く健在にして其の過去一世紀に近い間の時勢の變遷と、自ら遭遇したる國家の重大事とを極めて興味深く、而かもその實況を眼前に觀るが如く、自ら筆を執り、又は口授して筆記せしめたものが本書である。讀者は波瀾を極めたるその半生から深い興味と、臺きざる處生の敎訓を得ることが出來るであらう、敢へて江湖の一讀をすゝむる所以である。

偉人權兵衛（山本權兵衛伯談話集）　村上貞一　昭一〇、一二　實業之日本社　四六判四〇〇頁　一、五〇

我が海軍の建設者であり、近代日本の生める一偉人山本權兵衛伯の言行錄である。

內容は「信念の人」「膽略の人」「細心の人」「情の半面」「先輩後輩」「交友五話」「對外論」「處世道」「家

庭人として」の九章と「權兵衛伯と著者」から成つてゐるが、軍事問題の噂傳せらるゝ今日斯うした親しみ易い記錄に依つて、一偉人の性行を知ると共に我が海軍發展の一面に觸れることも亦有意義であらう。

我農生回顧錄　山崎延吉　昭一〇、一一　山崎延吉全集刊行會　四六判四一〇頁　一、五〇

我國農業教育界に大きな足跡を殘して來た著者の自叙傳で、氏が明治六年命澤市に誕生してから最近迄を順序正しく記述したものである。一貫して農村振興に努力した氏の半生記に接して農村民はもとより、一般讀者も啓發さるゝ所決して尠くない。卷末の感語逸話集には十五氏の著者に關する逸話が集錄されてゐる。

教材世界地理　香川幹一　昭九、五　古今書院　菊判四〇〇頁　三、二〇

第一編世界の人口、第二編アジア洲、第三編大洋洲、第四編兩極地方、第五編アフリカ洲等の順序で記述され、どこまでも國家單位を重視してこれが世界的位置を明かにすることにつとめて居る。本書の持色とする處は、それが單なる地形、氣候、產業の抽象的叙述に止まらずして、國家存亡の動向と世界政局の波浪、國民經濟の消長等にも具体的に論及せる点である。各國の地理的情勢を知るには好適のものである。

京都史話　魚澄惣五郎　昭一一、四　章華社　菊判三〇〇頁　二、八〇

一千年の長きに亘る帝都として政治、文化の中心たりし京都の歷史はたゞに史家のみならず、我が國民の看過すべからざるところである。本書に收むる九篇は何れも廣く資料を涉獵して微に入り細を穿ち、流石に專門史家の態度を失はず、しかも趣味的に記述して、其の實相を眼のあたり髣髴せしむるものがある。本書は著者の言の如く、學究的で少しく堅くはあるが好箇の史話書たるを失はないであらう。

近畿景觀　北尾錄之助　昭一一、三　創元社　四六判四一二頁　二、〇〇

阪神附近、大和河内、近代大阪、紀伊伊賀、京都散歩篇に亦ぐ近畿景觀第六編である。著者は「歷史は風景を決定するものではなく、寧ろ風景認識には有害となることもある……」と言つてゐるが、事實は歷史的背景によつてその風景が生彩を放つ場合が多い。然し乍ら追憶や詮索の興味に深入りしすぎるとまた史蹟案内や旅行案内に墮する嫌がないでもない。著者は深く此点に注意を拂つて、景觀文學の第一人者としての貫祿を充分に示してゐる。讀者は一讀居ながらにして、近江、山城の山水に接するの思ひがあるであらう。

現代日本史　大森金五郎　昭九、一〇　富山房　菊判六〇八頁　三、五〇

本書は著者がさきに上梓したる「大日本全史」の續篇といふべきもので、明治維新より憲法發布に至る新日本の建設時代を記述してゐる。史眼炬の如く行文又簡明、たしかに現代史として權威ある好著といふべきであらう。

支那小史　黃河の水　鳥山喜一　昭一一、二　刀江書院　四六判三〇八頁　特價一、八〇

本書は京城大學教授の著者が隣邦支那の歷史を平易に正確に、しかも趣味的に書いたもので、「黃土を舞台に（傳說の時代）」から「五色旗と青天白日旗（現在の支那）」まで十三章より成つてゐるが、著者自らが言つてゐるやうに「少年子女のために書いたものが意外に廣い讀書層を持つことゝなつた」のは本書が如何に萬人に親まれてゐるかを語るものであらう。支那問題の複雜な今日支那の歷史を知る上に青年向の好著として推薦したい。

人物論　杉山平助　昭九、一二　改造社　四六判四〇三頁　一、八〇

著者の人物論は多彩多角を極めて居る上にその鋭い批判のメスは俎上に上る人に自ら反省の機會を與へると同時に一般讀者を啓發するところ頗る多い。本書に載するところは、文壇人物論、二私立大學長論、街頭人物、戯論さまざま、現代政治評論家論、當代リベラリスト評判記、漫畫家總まくり、新漫畫派集團の人々等で、いづれも著者一流の辛辣犀利なる評論が下され讀過興味津々たるものがある。

大楠公記　　社會教育會編　　昭一〇、五　社會教育會館　　四六判三五一頁　一、〇〇

大楠公の偉大さは今更茲に述べるまでもない。本書は内容を實蹟、遺烈の二篇に分ち、實蹟篇に於ては主として大楠公の事蹟を傳へ、遺烈篇に於ては公の人物、その一族、楠公の諸傳記の批判、楠公思想の近世に及ぼせる影響等を論じてゐるが、誠忠そのもの〜楠公精神を識るに最適のものであると思ふ。青年諸子の一讀を希望してやなまい

大日本國號の研究　　奥問德一　　昭一〇、一　大同館　　四六判三〇八頁　二、〇〇

我が國號には古來本號別號合せて廿有餘もあると言はれて居るが本書はこれらのすべてにつきてその由來や名義を根本的に考證解説し且つ我が國体、國情をも明かにし、著者獨自の創見に加ふるに古今の學者史家の調査研究をも蒐集して博引旁搜に努めて居るから一讀啓發するところが頗る多い。

地名の研究　　柳田國男　　昭一一、一　古今書院　　四六判三五二頁　一、八〇

著者は周知の如く、わが國民俗學の創始者で、歴史以外の民間に傳承されたる習俗に、その時代の眞のすがたを求めんとする史外史的立場に於てその研究を進めつゝあり、地名の研究もその一分野として研究せられて既に三十年になると云ふが、地名の意義、地名研究の方法、地名に使用される主要な言葉の意味を知るために拂はれたるその

間の辛苦は實に得難いものである。本書は單に地名に興味を有する者のみならず、鄕土研究家並に我が國民生活文化の研究者に稗益するところ多大なるものがあるであらう。

南洋大觀　　山田毅一　　昭九、七　平凡社　　四六判三七〇頁　二、三〇

大亞細亞主義を理想として新興亞細亞建設に精進せる著者が特に南洋問題をもつて政治的出發点となし前後五回南洋を踏破してその蘊蓄を傾けたものが本書である。叙述の範圍南洋全般に亘り南洋の事實を知るには誠に絶好の指針たるを失はない。

日本の過去現在及將來　　穗積重遠　　昭一〇、六　協和書院　　四六判一九八頁　一、〇〇

本書は曾て朝鮮教育會主催の夏季大學が平壤に開催された際三日に亘つてなされた著者の講演速記錄である。日本の過去及び現在に於ける文化を觀察して、將來に對する方向を暗示しやうとするのがその主目的であるが、記述は頗る平易であるから、青年達にとつて好適の公民讀本とするに足るであらう。

二宮尊德の思想と行績　　高須虎六　　昭一一、二　高陽書院　　四六判三五八頁　一、六〇

著者は宇都宮高等農林學校教授である。二宮尊德翁の遺跡の多い栃木縣にあること十年、その間農村經濟の窮迫を救ひ、子弟を教育する道は尊德翁の教へにあるとの確信を抱いて、その研究に精進して來た結果を廣く世に傳へんとしたものが本書であり、第一編「その生立と修養」第二編「その事業と教化」第三編「その思想と教理」に大別して記述せられて居るが、尊德翁の一生の事業とその中に含む理想精神を簡潔によく傳へて餘蘊なく、尊德研究入門の書としては理想的な出來榮えを示してゐる。尚餘説として「後を繼ぐもの」「先生の風貌」を概説し、最後に

「年譜」を附けてゐる。

景岳橋本左内　滋賀貞　武蔵野書院　四六判二九六頁　一、五〇

本書は二十六歳を一期として小塚原の刑場に露と消えた幕末の偉傑橋本左内傳で「橋本左内は如何なる人か」以下「年譜」迄悉く詳密なる内容を盛つてゐる。

橋本景岳の天才的な閃きは本書中の隨所に見受らるゝが、就中若冠十五歳の筆になる「啓發錄」の一篇はその代表的なもので、現今の青少年を奮起せしめずにはおかない堂々の大文字であらう。青年諸子の一讀を切望する。

福澤諭吉　石河幹明　昭一〇、三　岩波書店　四六判五〇〇頁　一、五〇

我新文化の開拓者福澤諭吉翁を傳へるものとして本館は嚮に「町村圖書館標準圖書目錄」中に於て「福翁自傳」を推薦したが、再び茲に青年諸氏へ本書を薦める。著者石河幹明氏は明治十四年慶應義塾に入學してより同三十四年翁の逝去に至るまで二十年の長きに亘つて翁の庇護を受けた人で翁を傳するには當代第一の人である。敢て江湖の一讀を望みたい。

滿洲から北支へ　神田正雄　昭一一、六　海外社　四六判三七〇頁　一、五〇

滿洲北支に關する著述は所謂汗牛充棟も啻ならぬ狀態である。然し乍ら一部分に偏せず、又その管見に終らず、大所高所より之を觀察してそこに醞成されつゝある幾多の問題を正視せるものはまことに尠い。本書は永く滿洲及北支に滯在してそこを第二の故郷とまで考ふる著者の正鵠なる滿支觀で、その批評觀察は蓋くわれわれのよき參考となるもので、滿支の推移に多大の關心を有する我國民の必讀書であらう。

青年賴山陽　木崎好尚　昭一一、二　章華社　四六判二六三頁　一、五〇

本書は山陽父祖の代より筆を起し、三十歳の暮、備後神邊の管茶山の村塾に教授として赴く迄の青年期を取扱つたもので、一世の風雲兒山陽の憂鬱發奮を感得するにはまことに恰好の書である。山陽の研究家として令名ある著者の豐富な材料が極く平易な文章で自由に使驅された青年向の好著である。

わが七十年を語る　林權助　昭一〇、三　第一書房　四六判四二九頁　一、八〇

本書は前後四十年を外交官として送つた林男の波瀾多き生涯を經し、其の間に直面せる幾多の對外問題を緯とした自叙傳であるが　明治の黎明期より昭和の今日に至るまで我外交の樞機に參した翁の傳記を盛つた本書は取りも直さず、生きた外交史として不盡の興味と示唆とを與へずにはおかぬであらう。

政治・法律・經濟・社會問題・教育・民俗・軍事

鄕土生活の研究法　柳田國男　昭一〇、八　刀江書院　四六判三三三頁　一、五〇

著者は我國民俗學の創始者である。本書は著者獨自の見解のもとに民俗學研究法の一つとして鄕土生活の研究法を述べたもので　鄕土研究が盛に唱導せられる今日、この方面に志す人は勿論一般青年諸子の一讀を要するものであらう。

現代支那概論—動かざる支那
現代支那概論—動く支那

矢野仁一　昭一一、三　目黒書店　動かざる支那　三〇八頁　動く支那　三四〇頁　各二、三〇

日華の關係は止に運命的である。從つて兩國人は好むと好まざるとに關はらず、永劫に密接なる交渉を持續するの外はない。然るにその關係を圓滑にし所謂東西永遠の平和を確立することの必要は既に久しく強調されたところであるが舊態依然として相剋する所以のものは果して何に基づくであらうか。筆者はこれを兩國人の相互理解の不足に歸すべきであらうと考へてゐる。相互の理解は啻に爲政者の外交的辭令によるべきではなくして兩國民性の根本に觸れ歴史的事實に裏づけられたものでなくてはならぬであらう。

著者は「支那問題の復雜性は世界歴史の潮汐の如く押寄せる大勢の力と、數千年來積疊せる歴史的傳統の力とが同時に支那に働きつゝあるがためである」といつて居るが、前者即ち世界の大勢に基づく支那の一面を「動く支那」に於て觀察し、後者即ち歴史的傳統に彩られたる支那の一面を「動かざる支那」に於て檢討して居る。

まことに目下の日華關係整調こそは極東平和確立のために没すべからざる一大關心事であるが、支那研究の權威たる著者のこの論策こそは充分の示唆を以て讀者を啓發するところ少くないであらう。

現代の陸軍
現代の海軍

伊藤政之助　匝瑳胤次　大日本圖書株式會社　現代の陸軍　四六判二七七頁　現代の海軍　四六判三七〇頁　各一、〇〇

世界大戰で戰爭の慘禍を深刻に体驗した歐洲諸國はもとより、最近米國や支那に於ても國防の見地からそれぞれ國家總動員の組織制度を確立し、大學其他高等の諸學校には戰爭學、國防學の講座を設ける等國を擧げて所謂「國防國家」の實現に努めてゐる。

我國でも最近非常時意識の現はれとして國防を主眼とする國策が特に重要の地位を占め、また一般國民の間に於ても國防、軍事の諸問題が眞面目な關心の焦点となりつゝあるを見るのである。此の時に當つて一般國民の國防常識

涵養に資せんが爲に書かれたる本書は、現代に於ける列國陸海軍の情勢を知らしめ、更に帝國々防の如何に急務であるかを知らしむるに非常に役立つであらう。

初歩 國際讀本

平野等　昭一一、八　東白堂　四六判三四九頁　一、四〇

日々の新聞雜誌に世界各國の動亂情況の報ぜられぬことはない。それ程に現在世界の國際情勢は急迫を告げてゐる。われ等はこの重大時局の推移を嚴重に注視せねばならぬが、それには基礎的な國際知識の上に立つた政局推移の正鵠なる判斷を持たねばならぬ。本書は「世界知識」の主幹として、國際知識の大衆化には充分の經驗を有する著者が斯の方面の初歩の人々のために、極く通俗的な著述を試みたもので、國際政局基礎觀念の概略を會得せんとする人々にとつて見逃し得ない良書である。

産業組合 國民讀本

有元英夫　昭一〇、三　更生社　菊判一〇、三〇

本書は産業組合とは如何なるものかと云ふことを平易に一般に知らしむるために刊行したもので、内容は「産業組合の意義」「産業組合の種類」「産業組合の組織」「産業組合運動の發達」「産業組合の本質」「信用組合」「販賣組合」「購買組合」「利用組合」の八課よりなり、体裁は全く教科書風である。叙述も亦教科書風の概括的なものであるが、産業組合の全般的な概念を得るには好適な書で、青年諸子の大いに參考となるものがある。

蔣介石と現代支那

吉岡文六　昭一一、六　東白堂　四六判二五〇頁　一、五〇

蔣介石は最近その西南工作を着々奏効せしめ、更に北支の工作にも鍬を入れんとして全支は今や日毎に蔣介石の獨裁下に統一されつゝあるが如くに見える。然し乍ら我々に最も近くして最も不可解なる國家は依然として支那であ

る。
新京日々新聞記者として永らく支那にあり、具にその現實を眺めて來た著者は本書に最近支那の實狀を傳へてゐるが、本書こそ現代日本國民の一讀すべき好著であらう。

世界の青少年運動　小尾範治

昭和一〇、一　青年教育普及會　四六判二二二頁　一、三〇

昭和八年の夏ハンガリー國ブダペストの郊外に於て第四回世界少年團大會が開催された際著者は日本少年團聯盟の依囑に依り派遣團を率ゐて大會に參加した。その機會に各國の青少年の訓練狀況をつぶさに觀察し、歸朝後隨時發表せるものを纏めて上梓したものが本書である。
最近に於ける世界の青少年運動の實況を知るには最適の書で、此の方面の關係者は勿論、一般青年の一讀すべき好著であると信ずる。

續法窓夜話　穗積陳重

昭一一、二　岩波書店　四六判三三九頁　二、五〇

西洋に「笑ひながら眞理を語る」といふ言葉がある。
本書は穗積陳重博士の「法窓夜話」（大正五年）の續篇で、博士の令嗣重遠博士の編輯されたものであるが、法律の本は無味乾燥なものとの相場を裏切つて、硬軟とり交ぜた法律に關するアネクドーツ百話を收めたものである。いづれを讀んでもおもしろいだけではない。そこにはきはめて有益な教訓が含まれてゐる。その意味でそれらは單に法律學に興味をもつ者だけでなく、一般知識階級のひろく一讀すべきものであるとおもふ。「續法窓夜話」こそまさに「笑ひながら眞理を語る」ものと言ふべきであらう。

帝國憲法制定の精神、歐米各國學者政治家の評論　金子堅太郎

昭和一〇、一〇　青年教育普及會　四六判一〇四頁　〇、三〇

昭和十年七月文部省主催にて全國大學高等專門學校の法制修身擔當の教職員のために憲法講習會が開催せられたがその折の金子堅太郎伯爵の講演速記を伯爵の訂正補筆を得て上梓したものが本書である。金子伯爵は伊藤公を補けて帝國憲法制定の事に直接參與せられ、而も今日生存せられる唯一の人で、憲法制定の由來並にその精神に就て語るには、今日伯以上の人はないのである。國体明徴の聲盛なる折柄斯うした貴重なる文獻を一讀することはまた國民の責務でもあると思ふ。

波高し太平洋　藤岡啓

昭一一、四　東京日々新聞社　四六判五三〇頁　一、五〇

今日日米の間には直接武力の解決を必要とする程の差迫つた問題はない筈であるが、我々はともすれば日米未來戰を豫想しまたこれを口にする事がある。勿論之は單なる我々の杞憂に過ぎないのであらうが、とまれ戰爭の有無を問はずとするも我々は今日の米國を熟知して置くの必要はある。著者は大毎、東日の紐育特派員として永く米國に滯在した人であるが、本書はその我々の希求する所を充たして十分であり、時節柄何人も一讀の必要がある。

南進論　室伏高信

昭一一、七　日本評論社　四六判三三一頁　一、〇〇

大陸政策か、南進政策か、兩者は共に今日の日本にとつて最も重要なる對外政策であるが帝國の眞の使命であるとしてする大陸政策は、世界の殆ど凡での國々から侵略政策と誤認されつゝあるを見るときに我々はこゝに一應の反省が必要である。本書は著者が極めて旗幟を鮮明にして帝國の南進政策を語つた特に青年の自覺を促す情熱の快著で廣く推薦するに價するものである。

貧者必勝　高田保馬

昭九、八　千倉書房　四六判三六四頁　一、六〇

本書は反マルクス學徒の總帥とも觀るべき著者が、最近數年間に新聞雜誌に發表せる感想隨筆をまとめて上梓したもので、第一輯追憶を語る、第二輯貧乏の話、第三輯農村と政治との話、第四輯經濟を語る等を主なる內容としてゐるが、中にも道德としての貧乏、貧者必勝の理等は著者の價値觀社會觀が惻々として讀者に迫り、さすがに巨匠の筆たるを思はしめる。

法官餘談　三宅正太郎

昭九、一二　新小說社　四六判三二七頁　二、〇〇

本書は著者が多年に亘る司法官生活の体驗から裁判の常識化簡易化を論ぜる外に時論として司法制度の改革、訴訟手續の革新等を高調し、さらに裁判に關する偶感隨筆等を載せて一般人の法律に對する理解を深めてゐる。

民族問題をめぐりて　古屋芳雄

昭一〇、九　人文書院　四六判二六六頁　二、〇〇

今日國際的にも國內的にも最も重要な民族問題の由來するところは政治的、思想的、經濟的等復雜多岐であらうがその根幹に生物學的機構の橫はることを看過して眞の理解と、その對策を講ずることは出來ない。本書は民族優生學の權威古屋博士が世の青年識者にこの問題の正しき理解を促したいとの熱意をもつて出版せられたもので、卷頭の「日本民族よ何處へ行く」以下民族問題の民族生物學的解剖を盡して餘すところがない。

明治天皇と軍事　渡邊幾次郎

昭一一、五　千倉書房　四六判三九三頁　一、五〇

本書は前帝室編修官たりし著者が軍事に關する明治大帝の御事蹟御精神を取りまとめたもので、そのあるものは樣々の記錄によつて人々に膾炙されて居ることではあるが今、更らにその細部に亘つて叡慮のあるところを拜して大御心を回顧し、聖軍の聲都鄙に喧傳せらるゝ今日軍民一致聖恩に對へ奉ることはまた臣子の本分であらねばならぬ。本書を敢て江湖に推薦する所以である。

明治天皇と立憲政治　渡邊幾次郎

昭一〇、一　學而書院　四六判二六二頁　二、五〇

本書は明治天皇と立憲政治の御關係を尋ね、天皇の如何に憲法の制定に叡慮を勞し給ひ、帝國議會に就て御軫念遊はされたかさいふことを、率直且精細に叙述せるもので、「立憲政治と明治維新」「天皇御親政の完成」「憲法制定以前に於ける明治天皇と立憲政治」「憲法發布以後に於ける明治天皇と立憲政治」「明治天皇と政黨」の五篇よりなつてゐる。渡邊氏は明治天皇御紀編纂に從事すること二十年、此の著述には正に絕好の適格者である。偶々立憲政治に對する國民の關心深き今日全國民必讀の良著として廣く江湖に推薦してやまない。

天文・博物・動物

曆と迷信　鈴木敬信

昭一〇、五　恒星閣　四六判二二一頁　一、五〇

從來全然無內容無根據の迷信がわれ〳〵に恐るべき害を及ぼしてゐることは尠くない。本書はさうした數々の迷信の中から特に曆に關係してゐるものだけを拾ひ、その意味を糺し、合せて曆との關係を述べたもので「十干十二支」「五行說」「九星」「十二直」「日の吉凶」等その正体を徹底的に糺明し盡してゐる。著者は東京科學博物館の天文氣象部主任で斯ふした科學の解說者として最適の人である。

天然記念物を探る　大毎、東日學藝部編　昭一一、三　盛文館　菊判　三三五頁　三、五〇

曾て大毎、東日紙上に掲載されて好評であつた「天然記念物を探る」に幾分增補して出版したものである。我國に於ける天然記念物の詳細を知り、その學術的價値を認識するには最適のものである。而も行文平明、その如何にもジヤーナリストらしい筆致はこれら自然の國寶を縱橫に解說して餘すところがない。

日本の星　野尻抱影　昭一一、六　研究社　四六判三五四頁　一、五〇

著者は既に幾度か趣味的な天文書を公にして來た、本書はそれらに比較すれば可成り考證的な研究書風に書かれた著者の天文隨筆であるが讀者は本書の一讀によつてよく百幾種の星について通曉し得るであらう。

山の隣人　長尾宏也　昭一〇、一〇　竹村書房　新四六判二四八頁　二、二〇

信州霧ケ峰に、スキーヤーやハイカーの爲にヒユッテを經營しながら、鳥や狐等いろんな動物と隣人の交りを結んで暮す著者が、それ等の四季とり〴〵の生活觀察を記したもので、その前著山鄕風物誌（昭和十年本館推薦）の續編とも言ふべきものであるが、体裁も前著に比して美しく、氣のきいたカットの多い興趣深き讀物である。

工藝學・工學・家政

家庭經濟讀本　河津暹　昭一〇、三　明善社　四六判二一七頁　一、三〇

婦人が家庭經濟を閑却することは、自ら婦人としての使命を無視するものと言つて差支ない。本書は毎日觸目拍手するところの經濟現象を極めて平易に記述したもので、著者が曾てJOAKより放送講演を依頼せられ、二回だけ放送して後病氣のため中止したのを續稿して上梓したものであるが、獨り婦人のみならず男子の一讀も希望したい

新式自動車教本　上坂正雄　昭一〇、一〇　工業圖書株式會社　菊判　二七六頁　二、〇〇

今日は自動車全盛時代で、如何なる山村僻地にも行き渡つてゐる狀態である。從つてその取扱は日常茶飯事として心得ておなければならぬであらうし　その知識は農村青年諸君にとつて必須のものでもあらう。本書は自動車技術に關する一切を說明したもので、稍々專門的であるが非常に參考となるものである。敢て農村の青年諸君に推薦する。

日本工藝沿革史　金子清次　昭一一、三　共立社　菊判　二七四頁　二、五〇

本書は、我國工藝の沿革についての學術的、考證的或は鑑賞的等のむつかしい研究を發表したものでなく、各時代の工藝美術の發達乃至は外國の影響などゝ言ふことを中心にして我國工藝の動向を示したものであるが、叙述頗る平明、一讀よくその沿革を概觀し得る好著述である。

ラヂオ技術教科書　日本放送協會技術局編　昭一一、三　日本放送出版協會　菊判　三八〇頁　一、二〇

日本放送協會は毎年ラヂオ技術講演會を開催して、ラヂオ業者の知識習得に便してゐるが、本書は同講習會の教科書として協會の專門職員に依つて編纂されたもので、ラヂオ技術の高級常識書とも謂ふべきものである。當地方にも先般LG放送局が開局せられて人々の間に連にラヂオに對する關心が強められたが、受信機の取付や故

障の修理といつた程度のラヂオ技術に關する參考書として本書は最適のものであらう。

産業・商業

朝日産業叢書

第四輯　安全陷作法の話
第五輯　共同作業場の話

朝日新聞社編　（朝日新聞社、四六判各約七〇頁各〇、一〇）

同

本叢書第一、二、三輯は既に本館に於て推薦したところである。今回の第四、五輯は何れも六、七十頁の小冊子であるが、農村更生のために「農村の協同者」たらんとして朝日新聞社が編纂したもので、新聞社の編輯らしい要領のよさを以て、大つかみに各方面を概觀してゐるから　大局を見ながら自らの進路を大過なき方向に導くためには是非一讀の要ある好著である。

實驗害虫防除法

矢後正俊

昭養賢堂　一〇、一〇　菊判　四三八頁　三、八〇

本書は内容を汎論、各論の二篇に別け、汎論に於ては害虫の性行、繁殖、之が防除の一般的方法、藥品、用具、設備等を述べ、各論の方で個々の害虫についてその習性、物質、防除法を箇條書とし、卷末には靜岡縣を標準としたものではあるが梨、林檎、桃、梅、柿、葡萄、柑橘類、稻、麥、桑等の防除暦が添付される等周密なる叙述がなされてゐる。著者は靜岡縣立農事試驗場梨害虫研究所主任の農林技師で稍專門的な研究ではあるが總て實際的であるから本縣の農業者殊に園藝經營者の好伴侶であると思ふ。

漁村と共同組合

星四郎

昭水産社　一〇、一一　四六判　一二三頁　〇、五五

本書は自治的な漁業協同組合の精神を漁民殊にその指導者に理解して貰ひ、相互愛と協同との力によつて、窮乏の漁村を更生せしめんとの意圖を以て、對話式に平明なる解説を試みた小冊子で、第一話「漁村の外貌」第二話「漁村生活の現實」第三話「漁業とは何か」第四話「協同組合の知識」第五話「浦濱制度から漁業協同組合へ」の五篇からなつてゐる。著者は目下農林省經濟更生部にあつて親しく全國各地の漁村に接し、その窮乏の由因を探つて之が更生の指導に當りつゝある人である。漁村不況の傳へられる折柄策を得たる出版であると思ふ。

鯉と鮒の養殖法

阿部圭

大日本水産會　四六判　一〇三頁　〇、六〇

鯉と鮒の養殖に就て極く平易な記述を試みたもので青年向の手頃な參考書である。尚著者は嚮に「實地應用養魚の研究（鯉、鮒、鰻篇）」を世に送つてゐるが、その價格が四圓であつて見れば青年には稍々不向の感じが無いでもない。本書はその要約的なものと見ることが出來るであらう。

實用園藝

東京府立園藝學校編

昭明文堂　一〇、一　菊判　六五七頁　四、五〇

蔬菜、果樹、花卉、菊、花卉裝飾　庭園、盆栽、養畜、農産加工、病虫害等に就いて記述してゐる。主として都會並に都會接續の農村向のもので、蔬菜にしても果樹にしても、都會地の要需に應じ得る種類のものを主としてゐるが、所謂實用園藝書として、特に都市近接地青年の一讀を希望する。

商店經營十講

今井忍

昭高陽書院　一〇、一一　四六判　二五八頁　一、二〇

本書は商店經營に一般の問題を多少理論的に取扱つたもので、商店經營が今日如何なる方向に向つてゐるかを知り自店經營上の參考とするにはまことに恰好の書である。殊に經營費計算に就て詳說してゐるが是など關係著述の少い貴重なものとして商店經營者の見逃し得ざるところであらう。

蔬菜果物の荷造と販賣　山崎磐男　昭一一、一　西ヶ原刊行會　菊判二六六頁　三、八〇

青果物荷造の適否と販賣方法の巧拙とが直接生產者に及ぼす利害の重大なるに鑑み、東京市神田青果市場に奉職する著者が過去十餘年の經驗を基礎としたる研究を發表したものである。第一編は總論、第二編各論、第三編蔬菜果物の販賣として各詳說してゐるが、最近の農業經營に形態の上から云ふも、また類書の少い点からするも農村の蔬菜果物の生產者を啓發するところ尠くない。

村長は語る　農村更生協會編　昭一〇、一二　農村更生協會　四六判四八頁　〇、一五

本書は、農村更生の先驅二宮尊德翁の逝去八十年記念祭の式典が過る昭和十年十月東京に擧行された際農村更生協會で、二十府縣に於ける優良村々長二十氏を東京に招いて「農村更生座談會」を開いた折の速記錄である。農村更生の中心にあるべき村長の熱心なる体驗事實談は農村青年諸君のたしかに傾聽に價するものがあり、切にその必讀を希望する次第である。

篤農家の研究　山路虎吉　昭一〇、六　泰文館　四六判六〇六頁　二、八〇

本書は現在鄕黨の師表として活躍せらるゝ篤農家四十二氏を著者自身直接訪問し、その談話に基いてその農業經營の苦心のさまを叙述したものである。內容を二編に分ち、其の第一編は「篤農家總說」として、所謂篤農家精神と云ふものゝ分析、篤農家を訪問する時の禮儀、視察要項などが記され、第二編は「篤農家訪問記」として各篤農家訪問の狀態が記されてゐるが、今日農村更生の喧傳せらるゝ時に當り、斯うした篤農家の實体的記述に觸るゝ事は是非必要であり、本書を農村青年に推薦する所以である。

農家經營法　松本喜作　昭一〇、一一　樂浪書院　四六判四〇二頁　一、五〇

夙に篤農家として知られた著者が農家經營法を說いたもので、合理的經營法に依る收益の增進と併せて農家の精神を知らしめんとしてゐる。內容は「農家經營の要素」「理想と實現」「收益增進」「農家經濟」「村家興隆」の五章から成つてゐるが何れも敎へらるゝ所多き實際的記述で、廣く農業經營者諸氏の必讀すべきものがあらう。

養蠶農家の副業　高橋伊勢次郎　昭一一、六　明文堂　四六判二八七頁　一、二〇

本書は從來養蠶農家の副業であつた眞綿や玉絲の製造はもとより、繭綿を處理したり、進んではこれ等の絲から織物を作り、桑條よりは桑白皮や桑紙を製造したり、桑株は桑炭になし、蠶糞は之を利用して緬羊の飼育をなしホームスパンを製織し、或は蛹を餌として養鯉をなすなど蠶と桑のあらゆる利用を平易に述べたもので養蠶家の副業を遺憾なく明示してゐる。

農山村副業叢書　大日本山林會　四六判九六頁　〇、二五

第一輯　山村の副業　川添孝藏

山村に適する林產副業を簡單に說明したものである。內容は漆、胡桃、栗、桐、杞柳等の特用樹木の空地栽培、下駄の木取り法、スキーの製作、醋酸石灰の製造等雜木の利用法、各種の食用菌類の栽培加工法、その他松脂、松根

油、クロモジ油、檜朝、ヌルデ五倍子、栗虫瘤、山筍、紫蕨、山葵等の栽培、採取並に加工法である。記述は極く平易で、農山村青年向の實用書として是非一讀の要があらう。

農村工業讀本　佐藤富治　昭和一〇、三文堂　菊判二五七頁　一、五〇

農村工業の問題は工業資本による都會工業の再生強化策として、最近異常の關心が拂はれてゐると同時に、他面農村に於ける窮乏の打開策として農村の間に歓迎せられてゐる。本書は農村工業協會の常務委員である著者が農村工業について記述したものであるが、行文平易而も多くの示唆に富む良著である。

丁抹で掴んだ　農村更生の秘訣　増田亮一　昭和一〇、四泰文館　四六判三三七頁　一、六〇

農村更生の活模範として世に謳歌される國は丁抹である。著者が農村更生の熱意に燃え、十有三年の官職を捨て昭和六年丁抹に赴き、親しく彼地の農村更生の眞髄を掴んで「日本の農村を生かすものはこれだ」との自信のもとに生れたのが本書である。農村更生にいそしむ人々にとつてこよなき參考書となるであらう。

米穀統制經濟講話　中澤辨次郎　昭和一一、二學藝社　四六判四二二頁　二、〇〇

米穀問題は何といつても我農村に於ける最重要問題で、その動向如何は直に全農村に影響するところ大なるものがある。著者は我國に於ける米穀問題の權威者で　既に該問題の多くの著書を世に送つてゐる。本書に於ては稻作の豊凶と米價、米穀統制問題　米穀自治管理法案、米穀國營專賣論等巨細の米穀問題を捉へて解說してゐるがその暢達なる叙述は卒讀のうちにもよくその概意を把握し得て益することが尠くない。

日本のデンマーク　碧海の農業と其の教育　宇田一　昭和一〇、四地人書館　四六判二二六頁　一、七〇

愛知縣碧海郡の農業が著しく發達して常に「日本のデンマーク」と呼はれてゐることは讀者の既に知れるところであらう。著者は「碧海の農業を說きながらその教育に觸れないものは完全に之を語るものでない」と云ふ見地から碧海の農業並にその教育の實情を紹介せるもので、農業教育者並に農業經營者の好伴侶であると信ずる。因に著者宇田農學博士は碧海郡安城農林學校長である。

酪農講話　和田豊　昭和一一、六文堂　四六判一七九頁　〇、九〇

多角形農業の一角として農產加工は著しく唱導せられて、それに關する著書も少くないが、その多くは概ね大仕掛の準備を必要とするものであり、此点酪農に關してもまた同樣の事が言へたのである。本書はさうした缺点を補つて、本邦小農家の酪農經營上最も必要な事項のみに重点を置いたもので、同方面參考の著書として恰好のものである。

音樂・運動・技藝

オリムピック讀本　鈴木良德　小出秀世　昭和一一、一〇學藝社　菊判五〇一頁　二、〇〇

本書はオリムピック競技の全般に亘つて懇切に解說したもので、オリムピック競技の意義、組織、歷史、日本のオ

リムピック參加史、オリムピック各種目に於ける各國の狀勢、オリムピック記錄集、第十一回大會（伯林大會）の記錄等內容は極めて豐富、正確であり、四年後に迎へるオリムピック東京大會に備へる國民的必讀書として廣く江湖に奬めたい。

西洋音樂の鑑賞法　小松清　昭三　一一、三省堂　四六判二七二頁　一、三〇

本書は西洋音樂の性質、樂譜、樂典、音樂の形式、樂典の種類、西洋音樂の諸時期等主として西洋音樂鑑賞上に必要な基礎知識を精粗なく系統的に記述したものであるが、極く平易な叙述法に依り、一讀よくその鑑賞眼の養成に資することの出來る良著である。

茶道讀本　高橋義雄　昭秋　一一、四豐國　四六判二七六頁　一、五〇

昨今各方面に何々讀本と名づけられるものが續出して居るが本書もまたその意味の一つのもので、茶道は茶界の實物教授、茶室茶庭の實見の上ならでは、容易に說明の出來るものでないとせられてゐたものを容易になしとげたものである。

本來茶道は人生に於ける風雅の修養道であると稱せられてゐるが、所謂日本精神の呼聲の高い現代に於て本書はその專門家のみならず一般人士の一讀すべき良著である。

文學

阿難と鬼子母　坪內逍遙　昭書物展望社　九、六　四六倍判八二頁　二、〇〇

我邦劇文壇の長老坪內逍遙博士の戲曲集で、主として歌舞伎のフォーミュラとテクニックとを適用し、共に佛典に依據した傑作「阿難の累ひ」「鬼子母解說」の二篇及び「桐一葉」の淀君宿所の場の改作を附錄に收め、印度畫專門の寬方畫筆の表紙繪、見返、口繪に、逍遙博士の筆になれる繪を本扉、中扉其他隨所に挿入し、越前特漉の本文用紙、華麗なる二色刷、堅牢なる製本其他體裁全般に亘つて凝りに凝つた豪華版である。

お話のコツ　安倍季雄　昭白鳥社　一一、四　四六判三〇二頁　一、二〇

座談にせよ、雜談にせよ、或は講演にせよ人に話を聽かせると言ふことは可成りの難事である。「眞の雄辯は眞念を以て眞實を語ることだ」とは雄辯道の眞理である。然し乍ら只それのみを以て果して充分人を傾聽せしめる事が出來るであらうか。聽く人をして眞にしんみりと耳を傾けしむる爲には隨分人知れぬ氣苦勞をしなければならぬ場合が多い。本書は著者がその体驗から得た貴重な資料を集めて「お話のコツ」を語つたもので、一般に話す者にとつてこよなき參考書となるものである。

現代人の爲の短歌のつくり方　石榑茂　昭三　一〇、七省堂　四六判一二八頁　〇、八〇

本書はラヂオ短歌初學講座として放送したものを增補訂正して上梓したものである。內容は「歌の大衆性」「歌の素材」「歌の用語」「歌の韻律と樣式」「歌と生活」「歌と推敲」の六講と附錄として「歌壇の傾向について」

「短歌とラヂオ」「何を讀むべきか」の三篇から成つてゐるが、著者は現詩壇において進歩的な役割を荷つた一人であり、その說くところ新鮮味に富み、行文また流麗にして一讀よくその眞意を把握し得る好著述である。

眞實一路　山本有三　昭一一、一二　新潮社　四五判四五四頁　二、〇〇

本書は本年主婦之友に連載されたもので著しく反響のあつた小說である。これは著者の最も得意とする少年の世界を描いたもので、母の愛に餓えて、次第に素直な童心を失ひつゝある少年と之をめぐる父親と姉と母親との苦惱であるが殆んど完璧に近く描き出されて讀者の心をしみじみと打つものがある。「眞實一路」に生きんとする人間、性格の相違が醸し出す人生の不幸の諸相、男性に對立する女性、男性に殉ずる女性、父性愛と母性愛等に今日の時代が孕む問題が誠實に取扱はれた好小說である。

惜春　丹地文子　昭一〇、四　岩波書店　四六判四五一頁　二、五〇

素朴な淸楚な感情が現實生活のうちに狹められ失はれて行くのを慨いて靑春の情感に限りない愛惜を寄するあまり「惜春」と題して上梓したのが此短篇戲曲集である。

素月集　尾上柴舟　昭一一、四　雄山閣　四六判四〇七頁　二、〇〇

本書は我が歌壇に重きをなす著者が昭和五年九月以後昭和十年末までに發表せる作品を收めたもので、昭和五年に上梓せる閒步集につぐ著者の第十一歌集である。本書に盛られたる數々の歌は何れも著者の素月の如き靜かに寂びた歌境を表明して餘蘊がない。

その流域　賀川豊彥　昭一〇、一一　講談社　四六判三六九頁　一、三〇

阿波國那賀川の流域の一寒村に生れた一靑年を主題にその靑年が社會のあらゆる醜惡、物質的貧困と闘ひ乍ら、常に己を持すること高く潔く、その鄕里で、或は大阪、東北でさま〳〵の辛酸を嘗めたる後再び鄕里那賀川の流域に歸つて愛土、愛隣、愛神の三愛主義の下に衰運その極に達せる山村の更生に新らしき出發をすると云ふ著者の基督敎的思想の加味された農村小說である。

大楠公　大佛次郎　昭一一、六　改造社　四六判四一九頁　一、八〇

嘗て朝日新聞の夕刊に連載されたもので正成公がその一族を引き具して後醍醐天皇に御味方申してより笠置、赤坂の合戰を經て千早城の戰までを取材としたものであるが、夜討、朝駕或は壯絕なる肉彈戰等楠公苦戰の狀況を描き出して餘蘊がない。とこしへに輝く日本精神の精華大楠公の忠節を偲ぶ好資料である。

魂は歩む　下村虎六郎　昭一一、一〇　泰文館　四六判一九〇頁　〇、九〇

飽くまで自己に忠實ならんとした一農村靑年が偶然の機會から、一切の人間に疑惑の眼を向け出し、永い間の苦闘を經て、やうやく人生の本道に立ち返る經路を描いたもので、小說の形式をとり乍ら其間靑年期の心理、乃至人生に觸れんとした多分に敎訓的の意味を含んだ好讀物である。

唐詩三百首新釋　塩谷温　昭八、九　弘道館　四六判七六二頁　一、八〇

本書は先に漢文註釋全書中に收められたものであるが、其の後絕版となつたものを更に修正加筆して上梓したのである。詩の重んずべきは訓讀にあるをもつて本書は特に訓讀法に注意し、解釋を分ちて字義、大意、講義の三項となし、字義の下には難解の字義出典を釋き大意に於ては其の詩の成れる所以及び詩意の大略を述べ講義の條下に詩

意を詳說し李杜をはじめ初、盛、中、晩唐における詩聖の名篇玉什を縱橫に解說紹介して、紙上に原作の氣魄風韻を躍動せしめ、附錄に作者小傳並に作者別索引を加へて讀誦に便ならしめてゐる

俳句教程　荻原井泉水　昭一一、三　千倉書房　四六判四六四頁　一五〇

著者は定型俳句の殼を破つて自由律俳句を唱道してゐる人であるが、本書はその自由律俳句の立場から俳句全般を平明懇切に解說して餘すところがない。俳句が詩の一形態として見やうとする人々に重要な示唆を與へる許りでなく、既に定型俳句を研究中の人々にとつても本書の一讀は敎へらるゝところ多きものである。

宮本武藏　地水の卷　水火の卷　吉川英治　昭一一(五)(一一)　講談社　四六判各約五〇〇頁　各一、六〇

目下朝日新聞紙上に連載せられ滿天下の賞讃を博してゐる大衆小說である。著者は此小說によつて人間宮本武藏を描き出さんとして滿身の熱意を傾けて書きつゞけてゐるが、吉川氏はこの一作によつて從來の面目を一新したと云はれてゐる程である。唯單に興味の点許りでなく、人間修養の上にも裨益するところも多く、此点青年讀君に奬めて憚らないものである。

桃の雫　島崎藤村　昭一一、六　岩波書店　菊判　三二〇頁　一、二〇

「飯倉たより」「市井に居りて」等に次ぐ、六十歲を迎へた後の島崎藤村の感想集である。著者は自己の身邊を顧みて「年若い時分には、私は何事につけても深く深くと入つて行くことを心掛け、また、それを歡びとした。だんだんこの世を旅をしていろいろな人にも交つて見るうちに淺く〻〻と出て行くことの歡びを知つて來た」と述懷してゐるが、本書は老藤村の心境が老後益々透徹して溫いこゝろと靜かな眼が古人に往き新らしい時代に行きした淡々たる中にも滋味掬すべき感想隨筆集で、一讀々者を魅了して卷を掩ふの遑なからしめる好著である。

內容圖書及發行所一覽

書名	著者名	發行所	頁
隨筆			
雨の念佛	宮城道雄	三笠書房（神田區神保町三ノ六）	五
鬼の念佛	釋瓢齋	立命館出版部（京橋銀座西二ノ四）	〃
學窓雜記	小泉信三	岩波書店（神田區一ッ橋通三）	〃
黑頭巾を脫ぐ	丸山幹治	言海書房（京橋木挽町二ノ四）	六
藝林閑步	木下杢太郎	岩波書店（前出）	〃
山中說法	杉村楚人冠	日本評論社（京橋區京橋三ノ四）	〃
續々湖畔吟	杉村楚人冠	日本評論社（前出）	〃
村里生活記	結城哀草果	岩波書店（前出）	七
哲學・心理・倫理・宗教			
家庭・婦人・兒童	高島平三郎	平野書房（本郷區本郷四ノ一七）	七
敎育勅語渙發の由來	渡邊幾治郎	學而書院（下谷區下車坂一五）	〃
鄕土に輝く人々	熊谷辰次郎	泰文館（神田區小川町三ノ二四）	八

群を抜く道　増田義一　實業之日本社（京橋區銀座西一ノ三）　八
孔子の生涯　諸橋轍次　章華社（目黒區中目黒二ノ五八二）　〃
現代女性信仰讀本　甲斐靜也　熊崎閑田　九
眞理に生きる　下村虎六郎　泰文館（前出）　〃
青年心理　青木誠四郎　叢文閣（麹町區四番町九）　〃
青年の書　室伏高信　モナス（小石川區竹早町三七）　〃
道元　圭室諦成　日本評論社（前出）　一〇
モラエス日本精神　（葡）モラエス著　花野富藏譯　第一書房（麹町一番町五）　〃
熱と愛とまごころの結晶　村上寛　文友堂（神田區神保町三ノ二一）　〃
口語譯幼學綱要　元田永孚編　芹谷重常譯　厚生閣（麹町區下六番町四八）　一一

歴史・傳記・地誌・紀行

石黒忠悳懐舊九十年　石黒忠悳　博文館（日本橋本町三ノ九）　一一
偉人權兵衛　村上貞一　實業之日本社（前出）　〃
我農生回顧錄　山崎延吉　山崎延吉全集刊行會（神田區鍛町二ノ三）　一二
敎材世界地理　香川幹一　古今書院（神田駿河台二ノ一〇）　〃
京都史話　魚澄惣五郎　章華社（前出）　〃
近畿景觀　北尾錄之助　創元社（芝區二本榎西町二）　一三

現代日本史　大森金五郎　富山房（神田神保町一ノ三）　一三
支那小史　黄河の水　島山喜一　刀江書院（神田駿河台三ノ六）　〃
人物論　杉山平助　改造社（芝區新橋七ノ一二）　〃
大楠公記　社會敎育會編　社會敎育會（麹町區裏霞關四）　一四
大日本國號の研究　奥間德一　大同館（神田一ッ橋通二ノ三）　〃
地名の研究　柳田國男　古今書院（前出）　〃
南洋大觀　山田毅一　平凡社（日本橋呉服橋三ノ五）　一五
日本の過去現在及將來　穗積重遠　協和書院（神田區神保町三ノ三神保ビル内）　〃
二宮尊德の思想と行績　高須虎六　高陽書院（神田小川町一ノ一ノ二内神田ビル三六號）　〃
景岳橋本左内　滋賀貞　武藏野書院（小石川高田豐川町四三）　一六
福澤諭吉　石河幹明　岩波書店（前出）　〃
滿洲から北支へ　神田正雄　海外社（淀橋下落合三ノ一三六七）　〃
青年年頼山陽　木崎好尙　章華社（前出）　一七
わが七十年を語る　林權助　第一書房（前出）　〃

政治・法律・經濟・社會問題・敎育・民俗・軍事

鄕土生活の研究法　柳田國男　刀江書院（前出）　一七
現代支那概論——動かざる支那　矢野仁一　目黒書店（神田區駿河台三ノ一）　一八
現代支那概論——動く支那

現代の陸軍	伊藤政之助	大日本圖書株式會社（京橋銀座一ノ五）	一八
現代の海軍	匝瑳胤次	〃 〃	〃
初歩國際讀本	平野等	東白堂書房（本郷駒込曙町一一）	一九
産業組合國民讀本	有元英夫	更生社（世田谷上馬町三ノ一〇〇八）	〃
蔣介石と現代支那	吉岡文六	東白堂（前出）	〃
世界の青少年運動	小尾範治	青年教育普及會（神田一ッ橋通町三〇教育會館内）	二〇
續法窓夜話	穂積陳重	岩波書店（前出）	〃
帝國憲法制定の精神・歐米各國學者政治家の評論	金子堅太郎	青年教育普及會（前出）	二一
波瀾に高しし太平洋	藤岡啓	東京日々新聞社（麴町區有樂町一ノ一一）	〃
南進論	室伏高信	日本評論社（前出）	〃
貧者必勝	高田保馬	千倉書房（京橋區南傳馬町三ノ五）	二二
法官餘談	三宅正太郎	新小説社（神田區錦町一ノ一四）	〃
民族問題をめぐりて	古屋芳雄	人文書院（京都市河原町二條下ル）	〃
明治天皇と軍事	渡邊幾治郎	千倉書房（前出）	〃
明治天皇と立憲政治	渡邊幾治郎	學而書院（前出）	二三

天文・博物・動物

暦と迷信	鈴木敬信	恒星閣（芝區南佐久間町二ノ三）	二三
天然記念物を探る	大毎、東日學藝部編	盛文館（大阪市西區靱北通二ノ一八）	二四
日本の星	野尻抱影	研究社（麴町區富士見町六ノ五）	〃
山の隣人	長尾宏也	竹村書房（四谷區坂町七八）	〃

工藝學・工學・家政

家庭經濟讀本	河津遷	明善社（本郷區元町一ノ一七）	二四
新式自動車教本	上坂正雄	工業圖書株式會社（神田旅籠町三ノ四）	二五
日本工藝沿革史	金子清次	共立社（神田區駿河台三ノ九）	〃
ラヂオ技術教科書	日本放送協會技術局編	日本放送出版協會（日本橋區桧物町二ノ三）	〃

産業・商業

朝日産業叢書	朝日新聞社編	朝日新聞社（大阪市北區中ノ島）	二六
第四輯 安全稻作法の話			
第五輯 共同作業場の話			
害虫防除法	矢後正俊	養賢堂（麴町區元園町一ノ七）	〃
漁村と共同組合	星四郎	水産社（麴町區丸ノ内中通七號館）	二七
鯉と鮒の養殖法	阿部圭	大日本水産會（赤坂區溜池町一）	〃
實用園藝	東京府立園藝學校編	明文堂（神田區錦町一ノ一六）	〃
商店經營十講	今井念	高陽書院（前出）	〃

蔬菜果物の荷造と販賣　山崎磐男　西ヶ原刊行會（赤坂區一ッ木町三一）　二八
村・長は語る　農村更生協會　（麹町區有樂町一ノ九ノ二　中央金庫ビル五階）　〃
篤農家の研究　山路虎吉　泰文館（前出）　〃
農家經營法　松本喜作　樂浪書院（中野江古田一ノ二〇五四）　二九
農家の副業　高橋伊勢次郎　明文堂（前出）　〃
農山村副業叢書　大日本山林會（赤坂區溜池町一）　〃
第一輯　山林の副業
農村工業讀本　川添孝藏　明文堂（前出）　三〇
農村更生の秘訣　佐藤富治　泰文館（前出）　〃
米麥統制經濟講話　增田亮一　學藝社（神田區三崎町一ノ一）　〃
碧海の農業と其の教育　中澤拼次郎　地人書館（神田區錦町三丁目）　三一
酪農講話　宇田一　明文堂（前出）　〃

音樂・運動・技藝

オリムピック讀本　鈴木良德・小出秀世　學藝社（前出）　三一
西洋音樂の鑑賞法　小松清　三省堂（神田區通神保町一）　三二
茶道讀本　高橋義雄　秋豊園（神田小川町一ノ六）　〃

文學

阿難と鬼子母　坪内逍遙　書物展望社（杉並區阿佐ヶ谷五ノ三五）　三三
お話のコツ　安倍季雄　白鳥社（麹町區下六番町二七）　〃
現代人の爲の短歌の作り方　石榑茂　三省堂（前出）　〃
眞實一路　山本有三　新潮社（牛込區矢來町七一）　三四
惜春　丹地文子　岩波書店（前出）　〃
素月集　尾上柴舟　雄山閣（麹町區飯田町六ノ二三）　〃
その流域　賀川豐彦　大日本雄辯會講談社（本郷區駒込坂下町四八）　〃
大楠公　大佛次郎　改造社（芝橋新橋七）　三五
魂は歩む　下村虎六郎　泰文館（前出）　〃
唐詩三百首新釋　塩谷温　弘道館（神田區北神保町一一）　〃
俳句教程　萩原井泉水　千倉書房（前出）　三六
宮本武藏　吉川英治　大日本雄辯會講談社（前出）　〃
桃の雫　島崎藤村　岩波書店（前出）　〃

おなじふみふたゝび讀みてしらざりし
深きこゝろをさとるうれしさ　爲守

本目錄所載の圖書を購入希望者は昭和十二年五月末日迄に本館內鳥取縣圖書館協會宛申込まるれば五冊以上の申込者に限り特に購入斡旋の御便誼をお圖りいたします。

375
50

昭和十一年十二月二十日印刷
昭和十一年十二月廿五日發行
鳥取縣立鳥取圖書館
印刷所 鳥取新報印刷部
鳥取市鍛冶町

終

第六回圖書館週間記念

貸第34號—2